NIE

年　組　名前

道新でワークシート

防災用品 A を備えてますか

リサーチさっぽろ research sapporo

備えている 胆振東部地震 教訓に

大規模地震などの大災害時に支援態勢が整うまで3日程度かかるとされ、国や自治体は各家庭に最低3日分の水や食料の備蓄を呼び掛けています。2011年3月の東日本大震災から10年、18年9月の胆振東部地震から2年半。あなたの家では備えていますか。

◇

読者モニターに聞くと、「備えてある」が29%、「備えてない」は23%、「3日分ではないが備えている」は49%だった。

「ある」と答えた人の内訳を世代別でみると、60歳以上で44%と最も高く、その他の年代は20%台にとどまった。高齢世帯で災害に備えている人が多い傾向がうかがえる。地域別では、札幌市を除く石狩管内で34%、胆振・日高管内と後志・空知管内、札幌市内で27～29%台と、地域間で大きな差は見られなかった。

「備えてある」と答えた人の具体策では、胆振東部地震による全域停電（ブラックアウト）で、流通が一時途絶えた経験を受けた対応が目立った。札幌市内の49歳男性は「パンの缶詰やレトルト食品などを胆振東部を教訓に備蓄」、同市内の36歳女性は「胆振東部の時、ジュースやお菓子でほっとする時間が持てて精神的に助かった。そうした嗜好品も切らさない」と答えた。また胆振・日高管内の47歳女性は「米50キロ、水2リットルを5箱分、その他の食料半年分」を備えているという。

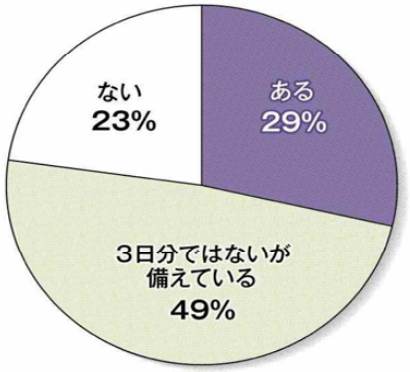
「備えてない」と答えた人からは、「切迫感がまだない」といった意見が目立った。後志・空知管内の27歳女性は「なんとかなると思ってしまう」、同管内の44歳男性は「そうそう大地震は来ないと楽観的にとらえている」と回答した。

こうした心理傾向について、札幌市防災協会の細川雅彦防災・危機管理専門官は「自分のところだけは大丈夫」と思い込む「正常性バイアス」を人間は持ちやすいと指摘。その上で「過去の大災害から教訓を学び、防災対策を講じてほしい」と呼び掛けている。

一方、「3日分の水を置いておく場所がない」（札幌市内の18歳女性）、「家が狭い」（同市内の25歳女性）など、備蓄スペースがないとの回答も多かった。

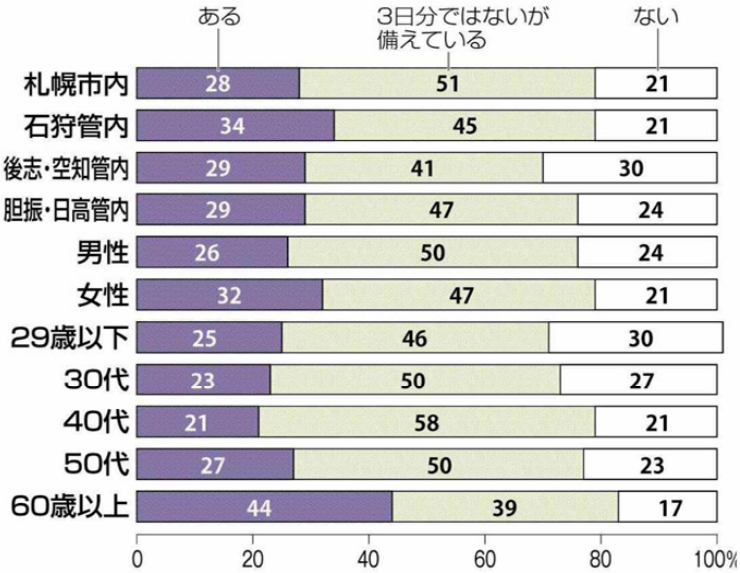
経済的問題で準備できないとの意見もある。札幌市内の36歳男性は「予算がない」、27歳男性は「防災用品は意外と高価で、一通りそろえようとすると金銭的負担が大きい。食料などは定期的な更新が必要で、数年に1回とはいえ非常食を消費しないといけないのも気が引ける」と理由を説明した。

（尾崎良）



◇調査方法　北海道新聞HotMedia（ホットメディア）が管理・運営する「Doshinネット」を通じて2月24～28日、石狩、後志、空知、胆振、日高各管内の読者モニター男女544人に質問。437人（男性220人、女性217人）から回答を得た。回答率80.3%。

備えていない 切迫感がまだない



※数値は小数点以下を四捨五入したため、合計が100%にならない場合がある

２０２１年３月２９日（月）朝刊　地方版　札幌市内　１３P(記事は一部再編集しています)

①空欄 A に入る適切な語を、記事の中から３字で抜き出しなさい。

②　（A）備えていないと答えた割合が最も少ない年代とその割合を答えなさい。

年代：　　割合：

（B）なぜその年代は「正常性バイアス」を持つ人が他の年代より少ないのか。